

■東京盃 (JpnII) アラカルト (過去 53 回の分析)

- ※第 6 回 (昭和 47 年) は「NET 盃」の名称で実施
- ※第 29 回 (平成 7 年) からは指定交流競走として実施
- ※第 31 回 (平成 9 年) からはダートグレード競走として実施
- ※第 20 回 (昭和 61 年) は内回りコースで実施
- ※第 36 回 (平成 14 年) から第 37 回 (平成 15 年) までは大井ダ 1,190m で実施
- ※第 16 回 (昭和 57 年) は 2 頭が同票数で単勝 2 番人気だったため、単勝 2 番人気馬は 54 頭、単勝 3 番人気馬は 52 頭
- ※記録は令和 2 年 9 月 23 日時点

■ 1~3 番人気馬の 3 着内率がまったく同じ

単勝 1 番人気馬は 16 勝、2 着 7 回、3 着 6 回で、3 着内率が 54.7%、単勝 2 番人気馬は 12 勝、2 着 9 回、3 着 8 回で、3 着内率が 54.7%、単勝 3 番人気馬は 12 勝、2 着 8 回、3 着 9 回で、3 着内率が 54.7%となっている。単勝 1~3 番人気馬の 3 着内率にまったく差がないレースだ。

■ 上位人気馬が 1~3 着を占めた例は 11 回

過去 53 回のうち 40 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を取めている。なお、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフイニッシュ決着は 17 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 11 回ある。

■ 複数回の優勝経験がある馬は 7 頭、“連覇”は 6 頭

東京盃において複数回の優勝経験があるのは、第 11 回 (昭和 52 年) と第 12 回 (昭和 53 年) を制したトドロキヒリュウ、第 17 回 (昭和 58 年) と第 18 回 (昭和 59 年) を制したスズユウ、第 21 回 (昭和 62 年) と第 25 回 (平成 3 年) を制したテツノヒリュウ、第 28 回 (平成 6 年) と第 29 回 (平成 7 年) を制したサクラハイスピード、第 31 回 (平成 9 年) と第 32 回 (平成 10 年) を制したカガヤキローマン、第 40 回 (平成 18 年) と第 41 回 (平成 19 年) を制したリミットレスビッド、第 51 回 (平成 29 年) と第 52 回 (平成 30 年) を制したキタサンミカヅキの 7 頭である。なお、このうちテツノヒリュウを除く 6 頭は 2 回連続の優勝だ。

■ 優勝馬の約 7 割が 5 歳以下

馬齢別の勝利数を見ると、3 歳が 10 勝、4 歳が 10 勝、5 歳が 16 勝、6 歳が 8 勝、7 歳が 5 勝、8 歳が 3 勝、9 歳が 1 勝となっている。幅広い世代から優勝馬が出ているものの、全体の 67.9%は 3～5 歳の比較的若い世代だ。

■ 牝馬は 10 勝、外国産馬は 5 勝

牝馬の優勝例は第 2 回（昭和 43 年）のオリコ、第 8 回（昭和 49 年）のイナリトウザイ、第 9 回（昭和 50 年）のオサイチテユダ、第 14 回（昭和 55 年）のカオルダケ、第 16 回（昭和 57 年）のレイクルイーズ、第 22 回（昭和 63 年）のイーグルシヤトー、第 30 回（平成 8 年）のトキオクラフティー、第 34 回（平成 12 年）のベラミロード、第 36 回（平成 14 年）のインアイン、第 46 回（平成 24 年）のラブミーチャンと、計 10 回ある。また、外国産馬の優勝例は第 30 回（平成 8 年）のトキオクラフティー、第 35 回（平成 13 年）のノボジャック、第 45 回（平成 23 年）のスーニ、第 49 回（平成 27 年）のダノンレジェンド、第 53 回（令和元年）のコパノキッキングと、計 5 回ある。なお、優勝を果たした外国産馬 5 頭はいずれもアメリカで生産された馬だ。

■ 3 着内馬のうち約 1/3 は地方所属馬、約 2/3 は JRA 所属馬

指定交流競走となった第 29 回（平成 7 年）以降の計 25 回に限ると、地方所属馬は 11 勝、2 着 7 回、3 着 8 回、JRA 所属馬は 14 勝、2 着 18 回、3 着 17 回となっている。3 着以内馬延べ 75 頭のうち、34.7%が地方所属馬、65.3%が JRA 所属馬だ。なお、地方所属馬によるワンツーフィニッシュ決着は第 31 回（平成 9 年）、第 42 回（平成 20 年）、第 51 回（平成 29 年）の計 3 回、JRA 所属馬によるワンツーフィニッシュ決着は第 35 回（平成 13 年）、第 38 回（平成 16 年）、第 39 回（平成 17 年）、第 40 回（平成 18 年）、第 41 回（平成 19 年）、第 43 回（平成 21 年）、第 47 回（平成 25 年）、第 48 回（平成 26 年）、第 49 回（平成 27 年）、第 50 回（平成 28 年）の計 10 回ある。

■ 騎手別の歴代最多勝記録は「4」

騎手別の勝利数を見ると、佐々木竹見騎手、高橋三郎騎手が 4 勝でトップタイ。内田博幸騎手、佐藤隆騎手が 3 勝で 3 位タイとなっている。

■ 調教師別の歴代最多勝記録は「3」

調教師別の勝利数を見ると、3勝の加用正調教師が単独トップ。朝倉文四郎調教師、大沼五郎調教師、大山末治調教師、岡部猛調教師、川島正行調教師、佐藤賢二調教師、須田明雄調教師、高橋三郎調教師、高柳恒男調教師、武森辰己調教師、村山明調教師、森秀行調教師が2勝で2位タイとなっている。

■ 1番から16番まですべての馬番が優勝例あり

枠番別の勝利数を見ると、8枠（9勝）が単独トップ。2枠と3枠（各8勝）が2位タイ、1枠と5枠（各7勝）が3位タイとなっている。また、馬番別の勝利数を見ると、3番（8勝）が単独トップ。1番（7勝）が単独2位、6番（6勝）が単独3位である。なお、未勝利の枠番ならびに馬番はない。